

先輩に学ぶ 女性の仕事選択、働き方



高校生の質問に答える大手企業勤務の女性たち＝1月20日、東京都目黒区

理系学部などの出身で大手企業で働く女性たちが、それぞれの選択と働き方を語る「女子高校生のための女性活躍応援イベント」企業におけるロールモデル」が1月20、21日、東京大学（東京都目黒区）で開かれた。

主催したのは、企業や高校、大学、教育委員会、博物館・科学館などで組織する一般社団法人「学びのイノベーション・プラットフォーム」。STEM人材（科学・技術・工学・芸術等・数学を結びつけ多角的に捉えられる人材）の育成に向けて小中高校の教育改革を加速させるため、2021年に設立された。今回は、オンラインも含めて約270人が参加。関電工、住友化学、IHIなどで働く13人の女性が登壇した。三井住友フィナンシャルグループ・サステナビリティ企画部で働く山北絵美さんは、京都大学農学部へ進学して農林業サークルに入り、「林業女子会」を設立。チェーンソーでの伐採と柔道を趣味にしながら、農業ビジネスに興味を持ち、同社へ入った。今は、パートナー企業など環境

高校生向け活躍応援イベント「自分が納得なら人生成功」「理系で生きる道見えた」

や社会課題に取り組み事業を担当する。「好きなことをしながら新しいことへのチャレンジを仲間と一緒に楽しんで」などと語った。KDDIの社員で、ロボット制御関連の仕事もしてきた木戸美冬さんは、北海道の6人きょうだいの家庭で、保育園の送迎や家事をして育った。中学時代に天才ハッカーのドラマに刺激されて、「コンピュータを学ぶ」と決心。高校時代はアイドルとメイクに熱中し、高3冬の模試はE判定。家計が厳しく近い国立大しか進学できないため勉強し、北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科へ。修士課程も修了し、今は同社で生成AIも扱う。「自分が納得できていれば人生は成功と思って！」と、高校生を励ました。

高校3年の女子生徒は「理系で生きていく道が見えた感じ。早く社会に出たい気持ちになった」と話す。

大学の学部生の女性比率は46%（23年度）だが、理学は28%、工学は16%と、理工系は特に低い。経済協力開発機構（OECD）によると、女性の大学入学者のうち理工系に進学した人は日本は7%（19年）で、加盟国平均15%を大幅に下回る。今シーズンの入試では、国立の9大学が理工系に「女子枠」を新設するなど、大学も国も改革を進めている。プラットフォームの浦嶋将年理事長は「日本の未来のためには、男女問わずSTEM人材を増やす必要がある」としている。（編集委員・宮坂麻子）

◆感想や情報はedu@asahi.comまたは〒104・8011 朝日新聞東京本社 社会部教育班へ。